

# 経営比較分析表（令和6年度決算）

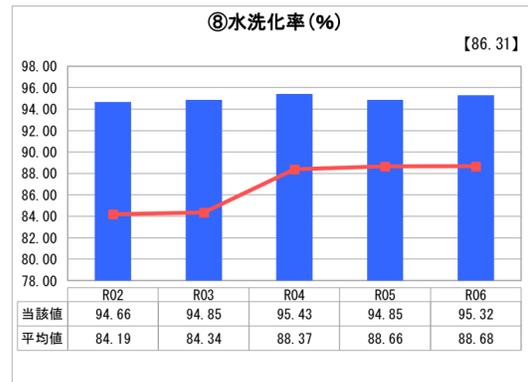
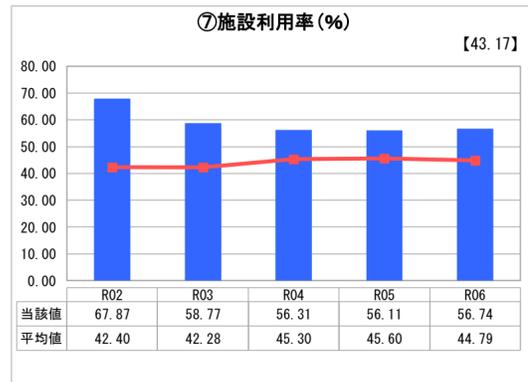
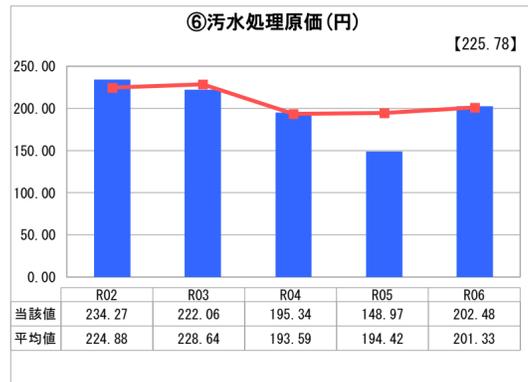
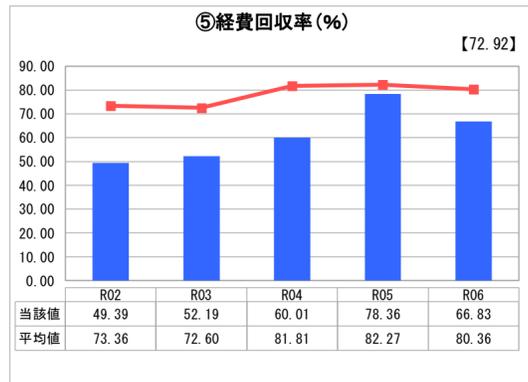
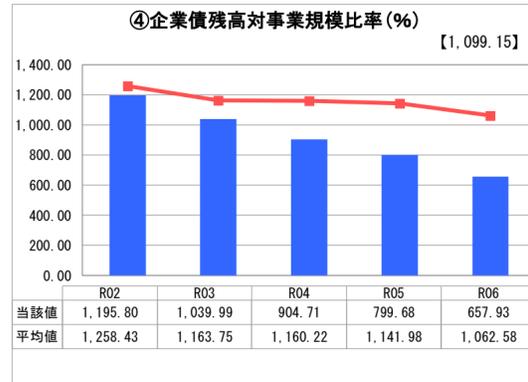
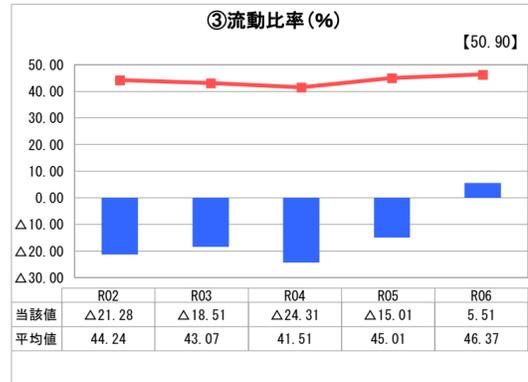
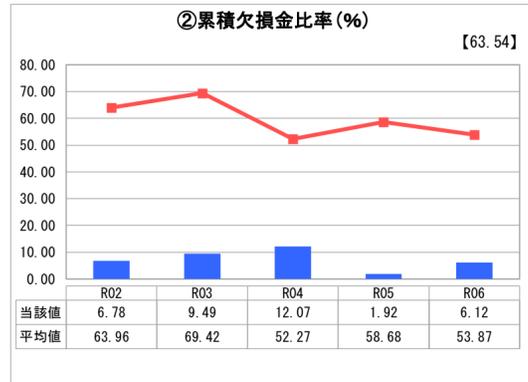
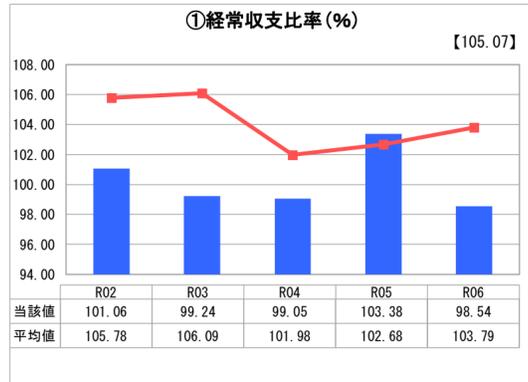
岐阜県 関市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	特定環境保全公共下水道	D1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)
-	79.62	23.14	77.67	2,882

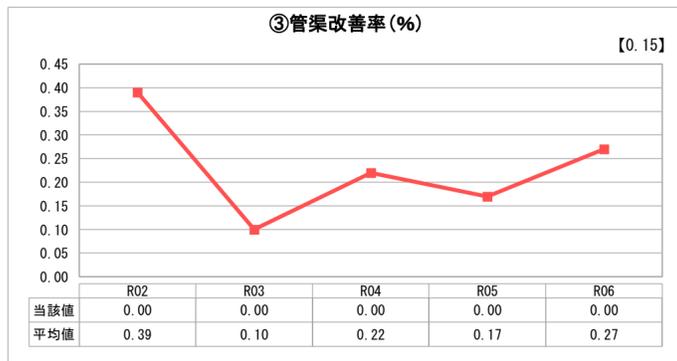
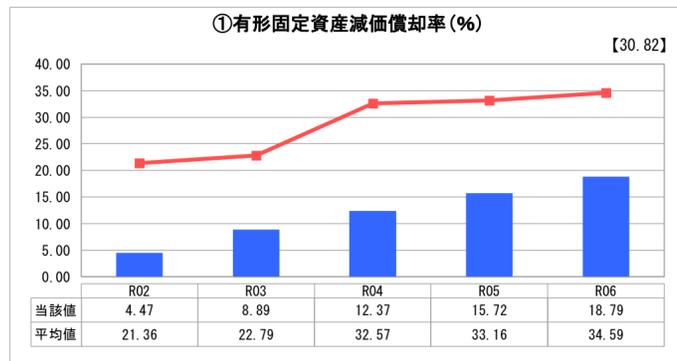
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
83,930	472.33	177.69
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
19,328	5.70	3,390.88

グラフ凡例	
■	当該団体値（当該値）
—	類似団体平均値（平均値）
【	令和6年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

本市特定環境保全公共下水道事業は令和2年度から公営企業会計を適用しています。企業債残高対事業規模比率は全国平均・類似団体平均を下回っていますが、経常収支比率、経費回収率は100%を下回り、類似団体平均も下回っています。これは、施設規模が大きく減価償却費が多額に計上されるのに比べると、下水道使用料収入が少ないからです。また、流動比率はプラスに転じました。令和6年度から使用料を増額改定し、財源の確保に努めています。今後も施設の老朽化対策等による支出や物価高騰による汚水処理費の増加が見込まれるため、健全で安定した運営となるよう努めます。

### 2. 老朽化の状況について

特定環境保全公共下水道は、平成4年以降の供用開始であるため、比較的新しく、まだ老朽化の問題はありません。管渠・設備の老朽化は、個々の管渠・設備の健全性を確認しつつ、施設の長寿命化を図るとともにライフサイクルコストの縮減に努めます。

### 全体総括

令和6年度から使用料を増額改定し、財源の確保に努めています。当初2ヶ月間は改定前使用料のため、年間を通じての検証ができるのは令和7年度以降となります。老朽化については、管渠・設備の健全性を確認しながら、施設の長寿命化を図るとともにライフサイクルコストの縮減に努めます。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。